

日本医史学雑誌 第62巻 第3号

目 次

原 著

- 代理懐胎における日本の産婦人科医師の言説
—— 1983年のヒト体外受精の成功—— …………… 貞岡 美伸 241
- 水島府県別生命表における刊行経緯および作製方法の書誌的変遷と
『〈公刊前〉1921-25年分府県別生命表』の作製時期 …………… 逢見 憲一 253

研究ノート

- Japanese Medical Education Reforms during the Allied Forces Occupancy;
Roles Played by the Public Health and Welfare Section of the Supreme Commander
for the Allied Powers …………… Shigemasa IKEDA, Satoru SUGITA and Seiji TANAKA 273
- 写本「乳岩之図」(国会図書館所蔵)の研究
——写本「青洲先生療乳岩図記」との比較——…………… 松木 明知 285
- 「乳巖治験録」中の4枚の手術図に関する一考察 …………… 松木 明知 295
- 春林軒門人赤石希范による乳癌手術図譜出版の計画…………… 松木 明知 305

ひろば

- 『解体新書』訳述同人の「烏山松圓」は「烏山松因」である …………… 松木 明知 315
- 緒方惟準が武谷祐之に宛てた書簡(明治16年8月3日)…………… 中山 茂春 319

資 料

- 池田文書の研究(55)…………… 池田文書研究会 323
- 青山胤通家関連文書(2)…………… 青山文書の会 333

追 悼

- 石原力先生を悼む…………… 蔵方 宏昌 343

記 事

- 例会記録 …………… 345
- 例会抄録
- 精神科医療の戦後70年…………… 岡田 靖雄 345
- 時衆・遊行聖における病…………… 新村 拓 348
- 新刊『米沢藩医 堀内家文書——解題篇・図版篇——』から
何が読みとれるか …………… 片桐 一男 349

書 評

- 米田該典 著『正倉院の香薬——材質調査から保存へ——』…………… 鈴木 達彦 351
島田保久 編著『蝦夷地醫家人名字彙』…………… 長瀬 清 352
二至村菁 著『米軍医が見た占領下京都の 600 日』…………… 渡部 幹夫 353

投稿規定 …………… 355

編集後記 …………… 357

《本号の表紙絵》

MR image of normal subject (1984)

医療の歴史の中で、身体の構造が外部から見えるようになったことはそれほど古い話ではない。人智の始まりとともにある医学は、その形態や構造と機能を考えることから科学となってきた。その基本となる長い解剖学の歴史に比べると、身体を可視化してきた現在の科学技術の進歩の速さには驚く。この写真は The Lancet 8442, June 15, 1985, p.1360 の Dimensional Accuracy of Magnetic Resonance in Studies of the Heart の論文に Fig 2 として Unmagnified, coronal, systolic MR image of a normal subject taken without respiratory gating として掲載されているものの原図である。現在の心臓の画像診断に携わる者には全く興味のわからない写真かもしれないが、1984年に Normal Subject (筆者) として冷気に満ちた MRI のガントリーの中で、ECG に同期した 70 分にわたり微動もしない時間を何度も費やした身にとって、今日の画像診断の進歩はどこまですすむのか予想すらできないものになっている。

当時の西欧先進国の国民病的な疾病であった心臓の冠動脈疾患の早期発見に、MRI が有効であることを目指した研究の一部として、胸部の画像診断が試みられていた時代の一枚である。肺結核の早期診断に果たした X 線撮影のような役割を期待しての研究であった。冠動脈の画像化もその後成功、今では一般化している。医学の夢を科学技術が実現してゆく速さがこのように速かった時代は人間の長い歴史の中でなかったのではなからうか。1984年のこの画像において、非侵襲的に大動脈弁・僧帽弁が可視化されたときの驚きは忘れられない。その 32 年後の今、この画像で驚く人は少ないであろう。

この撮像のプログラミングには 1979 年に「コンピューターを用いた X 線断層撮影技術の開発」でノーベル生理学医学賞を与えられている G. N. Hounsfield (1919–2004 年) が、共同執筆者のひとりとして参加していた。撮像は London, National Heart and Chest Hospital, Magnetic Resonance Unit において、0.5 Tesla 超伝導システムをもちいて 0.24 Tesla の磁場で行われたものである。

(渡部 幹夫)